


2020年6月4日

社会福祉法人よさのうみ福社会
理事長 青木 一博様

監事 谷川 正義 

監事 山口 薫 

私たち監事は、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次の通り報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類(計算書類及びその附属明細書)及び財産目録について検討しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(3) 入所支援施設「いきいき」の利用者預り金の監査結果

「入所者預り金管理規程」に基づき別会計で経理され、適正に管理されていました。

(4) 監査の所見

私たち監事が、昨年度の監事監査で指摘した事項について一定の改善の努力は図られ

ていますが、下記の事項についても必要な措置を講じられ、今後一層関係法令を遵守し適正な法人および事業所運営に努力されることを求めます。

記

1、2017年度から2019年度の3年間にわたって虐待認定を受けた結果を法人として重く受け止め、「障害者虐待再発防止計画」策定と実施に努力されている。

職員自身にもより良い支援・虐待防止の取り組みの意識が少しずつ高まってきている。また、職員アンケートの実施、理事長による職場ごとの懇談、スマートフォンによる意見聴取など、風通しのよい職場づくりにも努力されている。

さらに「障害者虐待再発防止計画」の取り組みを進めるとともに、利用者に視点をあてた個別支援計画作成と計画に基づいた支援の実践などに一層努力いただきたい。

2、2018年度収支差率は-1.3%であったが、2019年度収入を増やす努力、給与規程改定による人件費削減等により収支差率3%の目標に対して1.9%となった。

法人全体や各事業所の事業内容、会計の分析をおこない、個々の事業所の優れた実践や事業を他の事業所や法人全体にも活かすなど、法人の強みとしての事業所間の連携を一層強化することが求められる。

また、今後の法人事業の統合や事業の進め方について社会情勢や法人経営状況を合わせて論議・転換する時期になっており、地域の個人や団体とのつながりを強め、役員・職員をはじめとした関係者での論議を進められたい。

3、法人設立40周年をむかえ、利用者の高齢化が益々進んでいる。今後の支援のあり方、利用者の暮らしを支える事業のあり方などの検討を一層進められたい。2020年度はそのための委員会を法人内に設置されており、委員会での論議と取り組み、それをもとにした支援・実践を大いに展開されたい。

4、職員育成委員会と職員研修委員会による研修など、職員育成の取り組みに工夫努力されている。職員が日々の実践や業務を法人の「めざすもの」「めざす職員像」に結びつけていけるよう、法人第2次3カ年計画に掲げた方針にもとづいて法人設立40周年事業の推進を職員育成の機会として進められたい。

以上